



平成 20 年 5 月 9 日

各位

会社名 株式会社ネプロジャパン
代表者名 代表取締役社長 金井 孟
(JASDAQ・コード 9421)
問合せ先
役職・氏名 取締役管理本部長 大瀧 秀樹
電話 03-6803-3970

平成 20 年 3 月期 (連結・単独) 業績予想の修正、
並びに特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 19 年 11 月 12 日付に発表いたしました「平成 20 年 3 月期中間 (連結・個別) 及び通期 (連結・個別) 業績予想の修正、並びに特別損失の発生に関するお知らせ」の平成 20 年 3 月期通期 (連結・単独) 業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正

(1) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	24,500	800	640	50
今回修正 (B)	22,742	688	588	40
増減額 (B-A)	△1,758	△112	△52	△10
増減率	△7.2%	△14.0%	△8.1%	△20.0%

(2) 修正の理由

売上高につきましては、移動体通信事業において、大型併売店「ダ・カーポ」を 2 店舗出店しましたが、その後、業界環境や移動体通信事業者の動向に大きな変化が見られている状況において出店基準の見直しを行い、平成 19 年 11 月以降出店を見合わせたこと及び、移動体通信事業者による販売方式の状況変化による苦戦等により、22,742 百万円 (当初予想比：1,758 百万円の減少) と業績予想を下回る見込であります。

営業利益につきましては、営業費用は 22,054 百万円と当初予想比 1,646 百万円減少となったものの、上記売上高の減少を吸収できず、営業利益は 688 百万円 (当初予想比：112 百万円の減少) となる見込であります。

経常利益につきましては、下期の内部統制構築関連費用等が減少したため、588 百万円 (当初予想比：52 百万円の減少) となる見込であります。

当期純利益につきましては、平成 20 年 4 月 17 日付に発表いたしました「子会社における投資有価証券売却益の発生に関するお知らせ」のとおり、特別利益に投資有価証券売却益 120 百万円を計上しておりますが、中間期に特別損失 299 百万円を計上しており、下期に 57 百万円の特別損失を追加計上見込であることにより、40 百万円 (前回予想比：10 百万円の減少) となる見込であります。

下期に追加計上見込の特別損失 57 百万円は、滞留債権に対する個別引当追加計上による貸倒引当金繰入額 55 百万円等によるものであります。

(3) ご参考：前期の実績（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期（4/1～3/31）	21,597	545	530	54

2. 平成 19 年 3 月期 単独業績予想の修正

(1) 通期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	21,600	650	640	△100
今回修正 (B)	20,308	510	496	△210
増減額 (B-A)	△1,292	△140	△144	△110
増減率	△6.0%	△21.5%	△22.5%	△110.0%

(2) 修正の理由

売上高につきましては、移動体通信事業において、大型併売店「ダ・カーポ」を 2 店舗出店しましたが、その後、業界環境や移動体通信事業者の動向に大きな変化が見られている状況において出店基準の見直しを行い、平成 19 年 11 月以降出店を見合わせたこと及び、移動体通信事業者による販売方式の状況変化による苦戦等により、20,308 百万円（当初予想比：1,292 百万円の減少）と業績予想を下回る見込であります。

営業利益につきましては、営業費用は 19,798 百万円と当初予想比 1,152 百万円減少となったものの、上記売上高減少見込を吸収できず、売上高が業績予想を下回る見込に伴い、営業利益は 510 百万円（当初予想比：140 百万円の減少）となる見込であります。

経常利益につきましては、496 百万円（当初予想比：144 百万円の減少）となる見込であります。

当期純利益につきましては、中間期にて特別損失を 425 百万円計上しておりますが、下期に 136 百万円の特別損失を追加計上見込であることにより、△210 百万円（当初予想比：110 百万円の減少）となる見込であります。

下期に追加計上見込の特別損失 136 百万円は、滞留債権に対する個別引当追加計上による貸倒引当金繰入額 69 百万円、IP ソリューション事業及びその他事業における減損 56 百万円等によるものであります。

(3) ご参考：前期の実績（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期（4/1～3/31）	20,494	578	570	96

（注）上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以上